



寺報

2023年(令和5年)

No. 334

9月号

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
En [えん]

縁



高名なお坊さん(その21)

曇鸞大師(西暦476年~542年の頃)中国南北朝時代の高僧

曇鸞大師(どんらんたいし)は中国の方で、親鸞聖人は『正信偈』に本当の師匠である「本師」といわれ、七高僧の3番目にあげて非常に尊敬されています。それは親鸞聖人のお名前に、曇鸞大師から「鸞」の一字を頂かれたほどでした。

曇鸞大師は、476年に中国の山西省五台山に近い雁門にお生まれになりました。日本に仏教が伝わったのが538年で、聖徳太子が生まれたのが574年なので、曇鸞大師が生まれたのは100年も前になります。

主著は『往生論註』(論註)であり、『讚阿弥陀仏偈』、『略論安樂淨土義』というお書物も残されています。

15歳で五台山で出家され、龍樹菩薩の著された『中論』『十二門論』『大智度論』、また弟子の書かれた『百論』を研究されました。



曇鸞大師

头条号 / 忆乡忆客Y



曇鸞大師像

浄土の教えに帰依された曇鸞大師は、玄中寺など移り住まわれ、542年に御往生されたと言われています。

曇鸞大師の仏教に対する姿勢は、出家修行者のみならず、民衆と共に救われていく道をお説きくださいました。自分一人が救われていく道ではなく、共に浄土に参れる浄土の教えを喜び、その教えを一般の人々にも伝えられました。

曇鸞大師は、苦しみ悩む私たちが、浄土に往生することも、この世界に帰ってきて人々を導く仏の活動ができることも、すべては阿弥陀様の本願力によるものだと示されました。これを往相(浄土に行くこと)と還相(この世に帰ってくること)といい、往還回向はすべて(阿弥陀仏の)本願力によるものと示されました。

おまけ

住職レター

コロナ禍になつて、一番の変化は、リモート(インターネット)で会議をするようになつたこと。コロナ禍前、私の周りでは、リモート会議は全く無く、対面式が当たり前でしたが、多い時には毎週定期的にインターネットで会議をしていました。時には、会議的なこと三十分、その後、一時間くらい雑談タイム、このような時もありはしましたが。緊急事態宣言中は、人様とお会いする事が出来なかつたので、リモートであつても、交流が出来るのは嬉しかつたものです。

お寺でも同様に、リモート法事が増えました。と言っても、一般的なリモート会議とは、少し様子が違います。普通に数名の方は本堂へお参りされ、東京の息子さんと、海外に住む娘さんに、インターネットを通じてお経を届ける感じです。読経終了後は、本堂内のモニターを通して、リモートで参加された方ともコミュニケーション出来るようにしています。

法事こそ、その場に参勤し、雰囲気を味わいながら共に読経する、そうしないと有り難味が薄い、と思われるかもしれませんのが、私のお経は、遠く海外へも、ちゃんとお気持ちが届いているとのこと。

ただ、一つ残念なことは、お香の煙りと香りが届かないことかな。
以前でしたら、コロナ禍に関係なく、「息子は仕事の関係で広島へ帰ることが出来ませんでした」と、法事にお参り出来なかつたこと

たが、今後は、ぜひとも、リモート法事、意を活用して下さい。

外と心温まるなく、有り難かつたなく、と思つて頂けると思

リモート法事(善教寺本堂にて)

リモート法事(善教寺本堂にて)

ゆかりの寺シリーズ その24

前田利家

ゆかりの寺

「護国山宝円寺（曹洞宗）」



加賀百万石藩祖前田利家公は、越前国府中（今の福井県越前市）に在城された折、郊外高瀬村「宝円寺」の大透圭徐和尚に信頼厚く參禪帰依され、そこで侍人と禪僧との類い希な間柄が生まれた。

天正9年（1581年）、利家公が能登国所口（今の石川県七尾市）に移られた際、同和尚を越前から招き入れ、一寺を創建されるがこれを「宝円寺」と名付けられた。尚、同11年（1583年）、利家公が金沢城主となられるに及び、再び大透和尚を金沢へ招き、「護国山宝円寺」を建立し開祖とされた。

その後、「宝円寺」は、藩公から毎年二百二十余石の供養米を寄進されるまでとなり、更には前田藩累代の菩提寺となり、曹洞宗全寺院の触頭となつた。

寛文9年（1669年）、五代藩主前田綱紀公によって本堂・客殿・庫裏・山門の改築され、その際の伽藍は「北陸の日光東照宮」と称されるほどの絢爛豪華なものであった。宝暦9年（1759年）の大火で類焼し、同12年復興。

明治元年（1868年）2月28日、不幸にも寺内からの失火にて再び全伽藍を失い、今の本堂と庫裏を造営し現在に至る。



前田利家像



仁王尊像（前田利家公寄進）



前田家ゆかりの墓



宝円寺本堂

*お接待当番 中郷地区

（広島市東区牛田安樂寺）

講師 登世岡 浩雄師

午前十時～ 朝席
午後一時半～ 朝席
午後三時半～ 昼席
法要終了



「報恩講」（善教寺本堂）

十二月 二日（土）

（呉市安浦町信楽寺）

講師 広幡 康祐師

午前十時～ 朝席
午後一時半～ 昼席
午後三時半～ 法要終了

「護持会報恩講」（善教寺本堂）

十月二十一日（土）

九月十六日（土）午後一時半～
*毎月十六日に本堂において勤めております。

「宗祖聖人月忌・
門信徒祥月命日法要」（善教寺本堂）

ご縁に感謝
善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>
メール zenkyo@otera.or.jp